

元気からだ! Q&A

毒虫にやられたときの対処法は?

ハチ編

千葉県医師会 広報・ホームページ委員会

久保田 智樹 医師

Q ハチに刺された時の対処法は?

A ハチ刺症ししやうで問題になるのは主にスズメバチ類、アシナガバチ類、ミツバチ類です。ハチ類は春から秋によく活動しますが、特に晩春から晩秋にその被害が多いです。軒下や屋根裏、樹木、土中などに巣を作り、不用意に近づいたり驚かしたりすると刺されます。

ハチ刺症の症状は激しい痛みと赤み、腫れや局所のむくみなどの局所症状が一般的ですが、ハチ毒にアレルギーがある人はアナフィラキシーショックが問題になります。これは全身の強いアレルギー反応のことで、全身の蕁麻疹じんましん

や腹痛・嘔気・嘔吐、呼吸困難や声のかすれ、さらには血圧低下や不整脈などが生じ、重症化すると、意識障害や生命の危機も起こし得ます。

人口動態統計によるとハチ毒による死者数は年に十数名で、日本国内における野生生物による死亡事故の原因生物のトップです。症状が痛みや赤み、局所の腫れだけであればチャドクガ皮膚炎の時と同じ治療でよいですが、アナフィラキシー症状を呈した際は、救急対応のできる医療機関を受診(救急車を呼ぶなど)することをお勧めします(刺された直後であれば、アウトドア用品店などで入手できる「ホイズンリムーバー」で毒を吸い出すのも一定の効果はあるようです)。

なお、ハチ毒アレルギーのある方はアドレナリン自己注射薬を携帯し、必要時速やかに使用することが大切です。ハチ刺症を防ぐには、①ハチが自分の周りを飛び回っているとき(スズメバチでは、アゴをカチカチ鳴らしながら警告してきます)は近くに巣がある

可能性が高いため、落ち着いてその場を去る(騒いだり手で振り払ったりすると攻撃と間違われ、刺される危険が増します)②(特にスズメバチでは)黒いものに向かってくるため、白系統の帽子や衣服を身につける(洗濯物に潜んでいることもあるので注意)③香水や整髪料をつけないようにする(ジュースの匂いも危険です)といったことを(特にハチが生息していると思われる所では)心がけてください。ハチからみたら、人間は巨大な『危険生物』です。ハチ側も自己防衛で人間を刺すことが多いです。

なお、巣を駆除する際は専門の業者に依頼しましょう。

(注)アナフィラキシー症状(全身の強い蕁麻疹・唇や口の腫れ・まぶたの腫れ・息苦しき・声が出にくくなる・息がゼーゼー、ヒューヒューする・動悸・胸の苦しき・目の前が暗くなる・気が遠くなる・意識が無くくなる・冷や汗・腹痛・嘔吐・失禁する、など)がみられる時は、救急車を呼んでも救急対応可能な医療機関を受診されることを強くお勧めします。



ミレニアム80号掲載の「チャドクガ編」も見てね♪